

同志社大学

2009年度 個人研究費研究経過・成果報告書

2010年3月1日提出

所 属	職 名	氏 名
文学部	教授	植木 朝子
研 究 題 目	『梁塵秘抄』今様に見える地名の研究	
研 究 成 果 の 概 要	<p>『梁塵秘抄』所収の地名尽くし今様のうち、京都の地名が歌い込まれているものについて、これまでの注釈書を踏まえ、問題点の残されているところを中心に調査を行ったところ、いくつかの新しい発見があった。</p> <p>たとえば、貴船への参詣路を歌った今様において、これまでの注釈書では未詳とされていた篠原という場所について、地図の精査と实地踏査の結果、現在もその地名が残っており、歌の内容（他の場所との位置関係）とも齟齬しないことが確認できた。</p> <p>あるいは、清水寺への参詣路を歌った今様において、これまでの注釈書では「五条の石橋」が問題になっていたが（平安時代末期には石で橋を作る技術がまだなかったとされるため）、『万葉集』や『宇治拾遺物語』といった文献の用例調査により、飛び石の可能性のあることを指摘し得た。</p> <p>また、宇治の地が持つイメージを調査し、『源氏物語』など伝統的な文学におけるそのイメージ（憂いに閉ざされた孤独で陰鬱な空間）と、今様に歌われた宇治のイメージ（明るく賑やかで人々が群集する空間）が対照的であることを指摘し得た。これらの成果は、研究会において口頭発表した他、一部は、2009年8月に刊行した『ビギナーズクラシックス 日本の古典 梁塵秘抄』（角川ソフィア文庫）および12月に刊行した『梁塵秘抄の世界—中世を映す歌謡—』（角川選書）に取り入れている。</p>	